

====しばらくの間4ページ建てでお届けしています。====

トピックス 瑞江鶴の会、今年から夏休み無しに

瑞江鶴の会（江戸川区）では従来まで8月を夏休みとしていましたが、今年から会員の皆さんの発意で8月も練習を続けることに変更しました。東大島鶴の会（江東区）は発足時から通年練習と決めていますので、8月休みの会は亀戸スポーツセンター教室（江東区）、代々木鶴の会（渋谷区）、東京健康ランド教室（江戸川区、7月も）の三教室です。

50周年記念・北地域野外太極拳は10月24日開催

楊名時太極拳50周年を記念して全国でさまざまな行事が展開されることとなっていますが、東京都支部北地域では、10月24日（日）に台東区の「谷中の森」で野外太極拳の集いを開催いたします。申し込みは8月28日に終了いたしました。私の担当教室からは瑞江鶴の会と東大島鶴の会などから多数申し込みがありました。申込者には全員事前に記念のTシャツが配布されます。

健康妄語録 改正臓器移植法は施行されたが？（その1）

さる7月17日に、昨年改正された臓器移植法が、いろいろな問題をはらみながら、施行に移されました。本人の意思が不明でも、15歳以下を含めて、家族の同意があれば、臓器移植が行えるというところが今回改正のポイントです。

第一の問題は、脳死をヒトの「死」とするのは臓器移植を行うケースのみであり、「心臓停止、呼吸停止、瞳孔拡大という三徴候をもってヒトの死とする」という従来の「死」の要件はそのまま存在するという奇妙な二重基準^{ダブルスタンダード}を残したままであることです。

つまり、本人の意思が不明なまま、突然脳死状態になった者の家族に対して、臓器移植を認める場合は“脳死という死”ですが、認めない場合は“脳死状態という患者”ですが、どちらを選びますか？という選択を切迫した状況のなかで家族に迫るといいたいへん残酷かつ奇妙な法律だということです。

第2には15歳以下の臓器提供を認めたというところにあります。幼児などの場合はいったん脳死と判定されても、その後脳の状況が改善されるケースや、自主呼吸が戻るケース、長期間にわたって（肉体が成長しつつ！）生き続けるケースが多々あるため、いちがいに“脳死＝やがて必ず死ぬ”と決め付けることの危険性が（倫理的にも医学的にも）指摘されているからです。

第3には、基本的な問題として、他人の不慮の事故等によるドナーの出現を待ち続けるというのが、いわゆる医療行為なのかということです。そして現実的な問題として、日本に12163人（2010.6.30現在）いる臓器移植の待機患者は、何時救われることになるのでしょうか？ドナーの供給源はひとつは交通事故等などで発生する脳死者、もうひとつは脳障害による脳死者ということでしょうが、たとえば交通事故死者数は、いろいろな対策、たとえば、取り締まりや罰則の強化、道路整備の進行、救急医療の進歩などなどによって、年々減り続けて、統計ではこの20年で半減して年間5000人を切るようにまでなってきました。当然脳死者も減っているわけですが、移植関係者の期待でも、脳死者からの臓器移植は3年先で年間300例ぐらいにしたいといっているくらいですから、待機患者はまさに無限の焦燥感の中で待ち続けなければならないことになるでしょう。

米国では年間 20000 件ぐらい脳死者からの臓器移植が行われているようですが、これはあくまで「脳死は人の死」とする法的前提があつてのことなのです。今回も官僚と政治家による政治的な妥協の産物が生んだこの改正臓器移植法の下では、さまざまな矛盾に満ちた問題が引き続いて起きてくることは避けえないのではないかと思います。

「長寿健診」今年も異常なし

個人的なことで恐縮ですが、今年も「長寿健診」を受けましたのでご報告します。

お蔭様で満 76 歳になった今年も以下のような数値でむしろ去年よりも改善されました。“お歳にしては立派な数値でまったく問題はないが、ケチをつけるとすれば、唯一血圧です。140 以下ぐらいになるように自己管理をしてください。”というのが先生の一言でした。

検査項目にはありませんが、自分自身としては視力や聴力がだんだんと落ちてきているのが悩みですし、逆に、毎朝の目覚めが良く、散歩と太極拳が出来ているのが健康の証拠でしょうか。

長寿健診結果(平成22年8月12日)

項目	基準値	今回結果	対前年	コメント
体重		66.5	-0.1	結果は昨年並みに収まりました
BMI	18.5~24.9	23.8	-0.1	基準内で漸減
血圧 上	129以下	150	-5	年相応、昨年より下がった
下	84以下	76	-6	
肝機能 GOT	30以下	23	-5	基準値内で改善
“ -GPT	15~50	33	-5	基準値内で改善
総コレステロール	120~219	187	-14	基準値内
HDL “	40以上	58	6	基準値以上で向上
中性脂肪	149以下	41	-125	今年は空腹時検査、去年は食後
血糖値(注)	99以下	89	-3	基準値内で改善

注:血糖値の基準値は昨年までは139以下であったが、本年から大幅に下げられた。

旅をうたい拳を詠む

酷暑の夏に

しろがね
白銀の怪獣二匹いままさに
激突せんか若洲の森に
酷熱の日差しを避けてバス待てば
蝉の合唱いともかしまし
明け初めし夏の園生に拳舞えば
て ろうきゅう
掌の勞宮に気の兆しくる
亜熱帯になったと言われるトウキョウに
スコール
夕立来ぬやルアモイ恋し
(ルアモイはヴェトナムの米焼酎のこと)



【写真;建設中の東京港臨海大橋(仮称)と若洲の風車】

5) 道教の現世利益主義とは？

5～1) 来世利益か現世利益か

人間は原罪を負っているのです、洗礼を受けてキリスト教徒にならないと魂は天国に昇れませんという霊肉二元論にもとづくキリスト教はいわば来世利益志向型宗教です。仏教も来世での極楽浄土行きを願う信仰です。(そうではなく来世はないといっている禅宗のような宗派もありますが。)

これに対して道教は、あくまでも現世利益志向型の宗教とされていますが、先にも述べたように、必ずしも来世、あるいは霊の世界を無視しているものではなく、実際には死霊や鬼を恐れたり、呪法などのおどろおどろした部分も多分に内包しているのですが、それは道教の持つ多層性ということでまずはご理解ください。

道教の原点は「道(ダオ・タオ)」にあります。すなわち、「道(ダオ・タオ)」がすべての原点であり、これが、天地であり、物質であり、人間であり、すべての活動であり、エネルギーであるからです。したがって、その「道(ダオ・タオ)」を正確に理解して、うまく利用する技術こそ重要であるということです。それによって現世での“福祿寿”を勝ち取ることができるという、現世利益追求型の宗教であるということです。

ただ、実際には、道教は多層的であり、上層は神仙道教であり、下層は民間道教であるという指摘もあります。神仙道教が追求しているものをまずご紹介します。

5～2) 仙人と不老不死

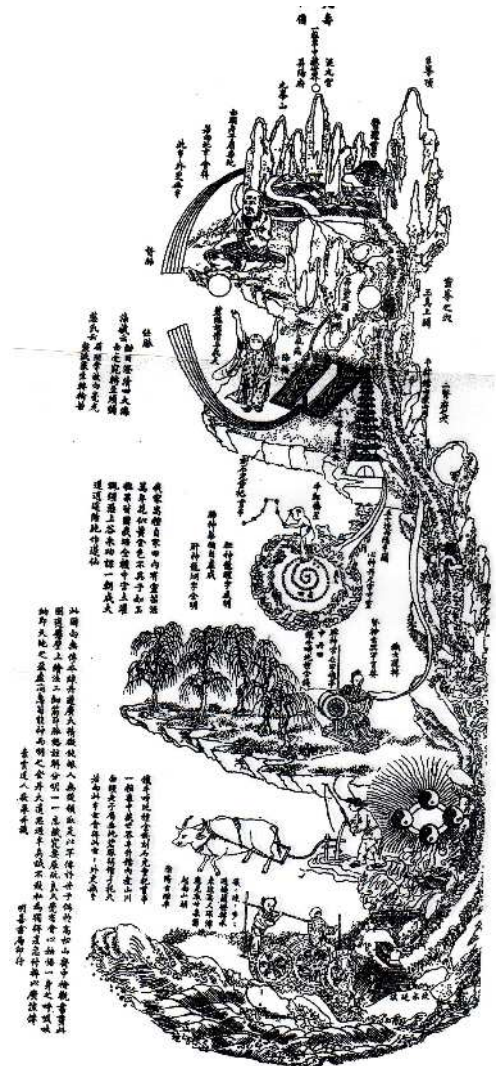
仙人と言うのはさまざまな修行によって不老不死の身となり、かつさまざまな超能力を持って、天界とも行き来することが出来る存在を言いますが、仙人にもさまざまな位があって超能力にも格差はがあるとされています。仙人に向かう最低必須条件はまず不老長寿ですから、その方法論が重要なのです。

5～3) 不老長寿の法

上述したように、「道(ダオ・タオ)」を「気」と言い換えて説明すれば、物質も霊(こころ)も気の一形態に過ぎないので、人間によって制御できるというのが道教の、というか中国古代思想の原点です。(左顧右眄 第4話～⑤「気や気功をどう理解するのか」参照のこと)

したがって、道教では人間もまた小宇宙(マイクロコスモス)であると言う観点から、人体にも気の流れる経絡があり、それをうまく制御することは可能であるという説を立てているわけです。もちろん人間を取り巻く環境下のさまざまな「気」(物質やエネルギー)の作用を知りそれを活用することもその中に含まれてのことです。(色即是空、空即是色と同じことです)

具体的な仙人修行はまず五穀絶ちに始まる肉体改造であり、さらには意によって気を操って体内に



丹（薬）を生み出す内丹法（鍊丹法）もあります。内丹法にはたいへん多くの種類があるようです。時代的に複層的に積み上げられてきたものともいえます。五禽戯^{ごきんぎ}や八段錦に代表される導引法や、胎息法（呼吸法）、守一法（瞑想法）、内観法などが代表的なものです。

たとえ仙人まではなれないまでも、五穀絶ちは別として、この類の内丹法が少なくとも長寿、健身のために有効であることは言うまでも無いことです。

陰陽はすなわち男性と女性であり、その交接を重視するのがいわゆる房中術です。これも不老不死あるいは不老長寿の方法として重要視されていましたが、ともすれば、男性中心的な術であったり、墮落的な儀式に陥つたりの指摘が歴史的にあるところです。【上図は黄庭内景経のミクロコスモスとしての人体図】

5～4) 外丹法（煉丹法）

上記の内丹法に対して、自然界の物質を利用して同様の効果を得ようと言うのが外丹法です。火を用いるところから煉丹法ともいいます。不老不死のための外丹法の原料としてはとくに丹砂（硫化水銀）が用いられたそうです。唐王朝の皇帝たちの多くは道教に深く帰依していましたので、歴代22人の皇帝のうち7人までがこの秘薬の服用による水銀中毒によって死亡したとされています。後世、次第にこの外丹法は廃れましたが、鍊金術や薬品製造や金属類の精鍊技術として引き継がれてゆくこととなりました。

5～5) さまざまな方術、呪術

以上がいわば、上層の神仙道教とすれば、これから述べる方術、呪術は、まさに下層の民間道教のやっていることです。仏教に例えれば、前者は自己修行としての禅や現世救済を唱える日蓮宗であり、後者は他力本願型宗派（たとえば浄土宗）と見ることもできます。

方術には多くの種類がありますが、要は道士や廟の力を借りて、信者個人やあるいは集団の願いを天界（道）に聞き届けてもらうための儀式や手法ということです。

護符、呪文、籙^{ろく}（免許状）、手印、歩罡^{ほこう}（特殊な歩法）、童乱（神憑かり）、卜占^{ぼくせん}、などさまざまやり方があります。また、紙人形、雷、蟲、鬼などを用いる呪術も数多く存在します。興味深いのは、この中には、孤魂（不慮の死などで成仏できていない靈魂、鬼）を恐れて、その鎮魂のための方術のたぐいかなりの地歩を占めていることです。自分たちの現世の幸福のためには孤魂の供養が重要であるとのことなのでしょう。ここには明らかに大衆的な霊肉二元論が生きているように思えます。

5～6) 風水

その土地の持つ気の優劣を診断して、家屋や墓地などの場所選定やデザインの判断を行うものを「風水」と称しています。風水もまた道教の重要なメニューですが、昨今は道士以外にも専門の風水師が存在しているとも聞いています。「風水説」はいわば、「気」という概念から発展してきた学説ですから、そういうこともあるのではないかと思います。風水の思想を随所に取り込んで建設されたのが北京市であり紫禁城であるといわれています。



【写真；紫禁城全景】